

京都精華大学活動報告 20

日時：平成28年11月28日(月) 10:00~16:00

天気：曇

気温：最高 14.0℃／最低 12.0℃

参加者：13名

内容：つるし柿作り，管住性ハチ類の観察

- ・今年柿の実が色づくのが昨年より12日遅かったのですが，実は倍以上実りました。



- ・収穫は，柿の実がとても高い枝になっていたため，造園業者さんに高い枝を剪定してもらいながら行い，今後に向けて高さを抑えてもらいました。



・次からはもうすこし収穫しやすくなると思います。



・収穫した実は、吊るすためのヒモが結べるような枝が残ったものと、そうでないものを選別しました。



・その後、皮をむき、ヒモをつけ、熱湯にくぐらせてから、京都の森展示室の南側軒下に吊るしました。



中には、調理師免許を持つ学生もおおり、さすがに手馴れた手つきで、どんどん皮をむいていました。

・軒下におよそ250個の柿が並ぶ、秋の風物詩が完成しました。今年はどうなるか楽しみです。



・次いで、今年5月に仕掛けたヨシを使ったトラップに泥の蓋がついており、管住性のハチが巣を作っていたため、その内部を観察しました。



・カッターできれいに割り、内部を観察したところ2種類のハチの巣が観察できました。



・これは泥の仕切りがあり，1室に一端が黒いバットのような形の前蛹がいることからジカバチモドキの仲間の主です。



・こちらは葉片で育室が作られており，ハキリバチの仲間の巣です。
どちらもとても良くできており，生き物の素晴らしさを感じました。
ただ，残念ながら巣を作っている途中の観察はできませんでした。なお，観察後は，割った部分を再び貼り合わせてもとに戻し，今後の成長段階を観察したいと思います。
そして，来シーズンに竹筒トラップのワークショップも企画できればと思います。

生き物・学び・研究センター 和田